

第8次旭川市総合計画基本計画改定案に対する総合計画審議会からの意見について

資料3

番号	項目	主な意見	意見の取扱い
1	基本計画全体	<ul style="list-style-type: none"> ●成果指標の数値が改善または悪化している理由についてどこかで触れなければ、基本政策や施策として挙げているものの説得力が弱くなるように思うし、市の取組自体が上手くいっていないというようなメッセージにもなりかねない。 ●市民アンケートは主観的な指標であるので、振れ幅がかなり大きくなるような気がする。アンケートを実施するタイミングによって、数値が上下する可能性が高いので、もし、悪い数値が出ると印象が悪くなってしまふ。これらの理由について、脚注などでも簡単な説明があると良いのではないか。 ●例えば、災害についての主観的な評価が悪化しているのは、おそらく自然災害が多発したことが理由であり、旭川市の問題というよりは、自然災害などの情報が増えたことが原因であると思うが、市の取組の印象が悪くなるということにもなりかねない。 	<p>◎答申案に反映しました。</p> <p>○昨年度、御意見をいただきながら作成した「第8次旭川市総合計画 進捗状況報告書」の点検評価の中において、現状と課題や今後の方向性の部分で、成果指標の数値についても触れながら評価検証を行っています。</p> <p>○成果指標に関して、目標値の設定の考え方を記載した資料について、別途、お示しさせていただきます。</p>
2		<ul style="list-style-type: none"> ●基本政策6の成果指標について、「一人当たりの市民所得」が下がっていて、「製造品出荷額等」が上がっている。 ●この2つの指標が並んで記載されているが、「一人当たりの市民所得」は、単純に市民一人当たりの市民所得であり、製造業とかかわりのある人たちの所得に限定しているものではないと思うが、並べて記載する意味はあるのか。 ●基本政策6は、「魅力と活力のある産業の展開」という政策であり、例えば、観光の分野が伸びているのであれば、観光の分野も「産業」という部分で入れていかなければ、何か魅力がないように感じる。 ●単純に指標の並びだけを見ると、見た目が悪く、寂しいまちに見える可能性もある。 	<p>◎答申案に反映しました。</p>
—	都市像の実現に向けての重点テーマ	—	—

番号	項目	主な意見	意見の取扱い
—	基本目標 1 すくすくと 子どもが育 ち、誰もが	基本政策 1 子育てに希望を持ち、子 どもの成長を支える環境 づくり	—
3	健やかに暮 らせるまち を目指しま す	基本政策 2 生涯を通じて健康に暮ら せる保健・医療の推進	●成果指標について、「生活習慣病の年齢調整死亡率」が追加されているが、がん検診受診率が全国的に低いといわれていることから、「がん検診受診率」についても指標として加え、その推移を確認し、施策を進める上での参考としてはどうか。 ◎答申案に反映しました。 ○「がん検診の受診率」については、推進計画において、事業レベルの推進状況を図るための評価指標として設定しています。
4		●今後、国において、認知症のケアや予防の分野にかなり重点を置いていくことと考えられることから、基本計画にも、認知症の予防に関する表現を入れた方が良い。	◎答申案に反映しました。
5		基本政策 3 互いに支え合う福祉の推 進	●地域包括ケアシステムについて、自治体が積極的に構築していくという表現がないが、早急に取り組む必要がある。 ●地域包括ケアシステムの中心は医療であり、医療を中心として地域を支えるという図式が必要である。
6		●地域の連携をスムーズに進めるためにも、地域包括ケアシステムの構築は重要である。	◎答申案に反映しました。
7		●介護人材について、現状は枯渇している状況である。他の基本政策において、外国人等の人材の活用についての内容が盛り込まれているが、介護については記載がない。人材の活用については、福祉分野も視野に入れる必要がある。	◎答申案に反映しました。
8		●施策 2 に、「地域における交流の場」という表現があるが、地域の交流の場は増えてきており、長く交流の場として活動している場もあるが、担い手の高齢化が進んでおり、その活動を次に引き継ぐ人がいないということが問題となっている。交流の場を設置することはできるが、継続していくことはかなり難しいと思う。 ●介護人材の不足とともに、地域における人材の不足、人材の育成の難しさやその必要性を強く感じ、危機感を持っている。	◎答申案に反映しました。

番号	項目	主な意見	意見の取扱い
9	基本目標 2 たくましく 未来を拓く 人材を育 み、生涯を 通じて学べ るまちを目 指します 基本政策 4 次代の担い手が、生き生 きと学ぶ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●施策 1 に「本市に愛着を持ち、地域社会に貢献する人材や地域産業を担う人材はもとより、世界にも人材を育成する～」という記載があるが、最終的には「本市にふさわしい高等教育機関の設置に向けた検討を行います。」という記載で受けている。 ●①地域社会に貢献する人材，地域産業を担う人材，世界にも通用する人材を地域の高等教育機関や企業と連携して育成すること。②新たな高等教育機関を設置していくこと。の2つに分けた方が良い。 ●目標は「人材の育成」であり，目標の達成に向けた手段として，まずは，①今，すでにある地域の力を使うこと。次に，②人材の育成の核となる高等教育機関を設置を検討すること。の2つに分けて考えていくということである。 	◎答申案に反映しました。
10		<ul style="list-style-type: none"> ●学校の現場でも，働き方改革が進められているが，一番，影響が出てきているのが部活動であり，活動が徐々に窮屈になってきている。 ●大きな問題は，どのように地域と連携をとっていくかということであり，これからは，いろいろな方が部活動に参加できるというシステムをつくっていかなければ，ますます窮屈になっていく。 ●部活動は，子どもたちを育てる大きな部分であることから，そういうことについても記載した方が良いのではないかと。 	◎答申案に反映しました。
11		<ul style="list-style-type: none"> ●部活動について，多くの先生は，できれば今までどおり続けたいと考えているのではないかと。 ●地域の人材を活用していくということだけではなく，教員も一市民であることから，教員も一部の時間帯は市民として参加していくというようにシステムを変えていくと，教員も立場を変えて，市民としてかかわっていくということができれば，働き方改革にしばられることなく，活動ができるのではないかと。 	◎答申案に反映しました。

番号	項目		主な意見	意見の取扱い
12			<ul style="list-style-type: none"> ●各中学校の部活動においては時間の規制があり、決まった時間までしか体育館等が使用できない状況である。 ●部活動の練習のほかにも、個人練習を行っている子どもたちも多くいる。また、外部コーチなどは、数ある体育施設を活用しながら、空いている時間をうまく利用しながら、子どもたちを指導、育成しようとしている状況である。 ●部活動の時間後においては、体育施設の割当がもっと小中学生にも割り当てられると、部活動がもっと向上すると思う。 	◎答申案に反映しました。
13			<ul style="list-style-type: none"> ●学校だけが教育の場ではない。平日頃から、学校、家庭、地域との連携が大切である。 ●小中学校の適正配置、小中連携・一貫教育も進められている。コミュニティ・スクールの推進についての取組も進んでいる。 ●子どもの数が少なくなり、学校の統廃合も進んでいるが、統廃合については、市民の意見を十分に聴いて進めてほしい。 	○今後の取組の参考とさせていただきます。
—		基本政策5 スポーツや文化に親しみ、学びを深める環境づくり	—	—
14	基本目標3 活力と賑わいにあふれ、経済が力強く発展するまちを目指します	基本政策6 魅力と活力のある産業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ●成果指標の「一人当たりの市民所得」が北海道と比べて低い状況であり、かつ減少しているということが一番の問題であり、企業の体力やマインドが減少してきていると思う。 ●情報発信については、現状のプロモーションも重要だが、現在、一番効力があるのは、SNSやIoT、アプリケーション等を使った情報の発信であり、それらを活用していくことをしっかりと盛り込まなければ、今後の4年間、戦っていくことはできないと考えている。 	◎答申案に反映しました。

番号	項目	主な意見	意見の取扱い
15	基本政策7 温かなまちの賑わいと国内外との多様な交流の創出	<ul style="list-style-type: none"> ●観光に関することについて、近文に「市民生活館」という施設がある。中には研修施設もあり、アイヌ文化に関する講習なども行われているが、冷房が設置されておらず、日中は人が集まりにくい状況にある。 ●観光施設や文化施設の設備をしっかりと充実させていただきたい。 	◎答申案に反映しました。
16		<ul style="list-style-type: none"> ●国際交流に関することについて、旭川市内においては、表記が日本語ばかりである。もう少し英語の表記を増やしていかなければ、国際化には向かないと思う。 ●一時停止の交通標識についても、英語で書かれていないので、レンタカーを運転している外国人がそのまま通過してしまうということがよくある。旭川市だけの問題ではないのかもしれないが、交通標識や道案内について、もう少し、外国語の表記が必要であると思う。 	◎答申案に反映しました。
17		<ul style="list-style-type: none"> ●中心市街地について、大型商業施設の郊外への出店など、市民が中心市街地に行くことが少なくなっている。中心市街地活性化については、多くの点をつくり、それを線とし、回遊性がなければならない。 ●観光客については、滞在日数が減っているという話も聞く。また、中心市街地でお土産などを買う場所や食事の場がないという状況である。 ●中心部については、町内会を構成する世帯数が減少している。個人商店においても後継者がいないなどの課題がある。地域の人が知恵を絞っていくことが基本だが、行政がどのように支援していくのが問題である。 ●さんろく街については、早朝のごみが汚く、臭いもひどいとの話もよく聞く。観光客が朝、食事をしたり、歩いたりするときのイメージも悪いのではないか。 	○今後の取組の参考とさせていただきます。

番号	項目	主な意見	意見の取扱い
18	基本目標4 自然と共生し、安全・安心な社会を支える強靱なまちを目指します 基本政策8 四季を通じて暮らしやすい快適な都市の構築	<ul style="list-style-type: none"> ●中心部の除排雪の問題について、中心部には、融雪槽が整備されているが、住民の高齢化が進んでいることや、住民を支えるボランティアが減っていることなどで、融雪層を使うことができなくなっている。ここでも、やはり担い手不足の問題が生じている。 	○今後の取組の参考とさせていただきます。
—	基本政策9 環境負荷の低減と自然との共生の確保	—	—
19	基本政策10 安心につながる安全な社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> ●学校など公的施設の耐震化の達成状況はどうなっているのか。特に避難所になっているところなどの状況は把握しているのか。 ●学校の耐震化への目標や、耐震化を進めていくという文言をどこかに加えた方が良いのではないか。 	<p>○学校施設の耐震化状況については、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校：全53校中、46校で耐震化が完了(耐震化率：約86.8%) ・中学校：全27校中、25校で耐震化が完了(耐震化率：約92.6%) <p>○学校の耐震化については、今回の見直しに当たり、基本政策4の施策2「安全安心な教育環境の整備」に、耐震化の推進についての新たに文言を追加しています。</p>
20		<ul style="list-style-type: none"> ●現状と課題において、近年、集中豪雨で浸水被害が発生している旨の記載があるが、旭川市内でも、平成28年と平成30年に、ペーパン川で河川が氾濫し、実際に大きな被害が発生している。このような近年の災害を踏まえた具体的な記載を行った方が良いのではないか。 ●平成30年の大雨の際に、エリアメールによって何度も通知がされたが、その通知を踏まえて、実際に避難を行った人はあまりいなかったのではないか。 ●市民の皆さんの防災や安全確保に関する意識の向上という部分につながってくるのかも知れないが、市としても、大雨により河川の氾濫の危険がある場合には、市民が避難しなければならないという意識を高めるような取組も必要である。そのような内容についても、記載した方が良いのではないか。 	◎答申案に反映しました。

番号	項目		主な意見	意見の取扱い
21			<ul style="list-style-type: none"> ●近年、全国各地において、火山噴火、台風、風水害、土砂崩れ、また、北海道では雪害など、様々な災害が発生しており、災害はいつ起こるか分からない状況である。 ●このような災害に備え、市内にも多くの避難所があり、市も予算を使い、備蓄品などの整備を進めているが、非常用発電機の整備があまり進んでいない状況である。電源の確保など、インフラ整備は重要であると考えている。 ●災害時の要支援者については、平常時から地域で情報を把握しておくことが重要であるが、個人情報保護の観点から、情報を把握することがなかなか難しいという問題もある。 ●建築物の耐震化についても、公共建築物をはじめ市内の建築物の老朽化が進んでいる中、学校を中心に、耐震化を進めていくことが重要である。 	◎答申案に反映しました。
22	基本目標 5 互いに支え 合い、共に 築くまちを 目指します	基本政策 1 1 市民、地域、行政が結び 付き、心が通い合う環境 づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●成果指標である「ワーク・ライフ・バランスを実現できている市民の割合」について、年齢を18歳から39歳までに区切って抽出することについて、何か理由があるのか教えていただきたい。 ●「ワーク・ライフ・バランスを実現できている市民の割合」について、対象の年齢を例えば60歳までにするなど、成果指標の対象を一般的な退職年齢程度まで拡大することは考えていないのか。 	<p>◎答申案に反映しました。</p> <p>○「ワーク・ライフ・バランスを実現できている市民の割合」については、H27年に、旭川市内の18歳以上39歳以下の男女を対象に、結婚や出産等に関する希望や、子どもを産み育てやすい環境について意識や意向等を把握するために実施した調査結果を基に設定した指標であることから、対象となる年齢は、同調査の対象である18歳以上39歳以下としています。</p> <p>○計画の途中で対象年齢の設定を変更した場合、基準値との比較が難しくなるという問題もあることから、成果指標の対象となる年齢については、従来どおりとしたいと考えています。</p> <p>○ただし、答申案に記載のとおり、ワーク・ライフ・バランスの推進に関する施策の実施に当たっては、若年層や子育て世代はもとより、全ての働く世代を対象として、啓発等に取り組む必要があると考えています。</p>

番号	項目		主な意見	意見の取扱い
23			<p>●成果指標の「本市に愛着や親しみを感じている市民の割合」と「まちづくりに関心がある市民の割合」は高いということが、昨年の会議においても話題になっていたが、「地域で主体的に活動している市民の割合」は低く、実際に地域で活動している人が少ないということが旭川市の課題であると思われる。</p> <p>●全ての市民の活動を集約したり、把握することは難しいかも知れないが、最近では、市内でも子ども食堂などの活動が活発になっているという話も聞いている。また、大学生等も世代間交流として子ども食堂に実際に参加するなどの動きもあり、そのような活動の集約と発信という部分についても、施策の中に表現を入れていただければ良いと思う。</p>	◎答申案に反映しました。
24			<p>●施策2「地域主体のまちづくりの推進」について、各地区の地域まちづくり推進協議会の活動は、年数を重ねる中で、活動の範囲も増えてきているし、地域のイベントの回数も増えてきていると思う。</p> <p>●このような状況を踏まえ、施策の中にも地域まちづくり推進協議会という名称を加えていけば、重点施策としても印象に残るのではないかと思う。</p>	◎答申案に反映しました。
—		基本政策1 2 広域連携によるまちづくり	—	—
—		基本政策1 3 機能的で信頼される市役所づくり	—	—

番号	項目	主な意見	意見の取扱い
25	都市づくりの基本方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 現行の4つの柱が基本方策の1から4になり、6つの領域を各基本方策に組み込んだとのこととあり、現行よりも見やすくなったと思う。 ● 現行の6つの領域を4つの基本方策にどのように組み込んだのかについて確認したい。 	<p>◎ 答申案に反映しました。</p> <p>○ 現行の6つの領域を4つの基本方策にどのように組み込んだのかに関して、関連性を整理した資料について、別途、お示しさせていただきます。</p>
26	総合計画の推進について	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合計画は、市の最上位の計画であるということで、これまでは個別計画とのつながりを図ってきたと思うが、今回、さらに国連レベルの目標とも整合性も見られた。 ● 総合計画とSDGsの目標が対比されており、関係性も分かりやすい。 	◎ 答申案に反映しました。
27		<ul style="list-style-type: none"> ● SDGs（持続可能な開発目標）の要素の推進について、旭川市としては、いつ頃までに進めていきたいと考えているのか。 	<p>◎ 答申案に反映しました。</p> <p>○ SDGsの要素の推進に係る期間について、ベースは総合計画であることから、総合計画の最終年である令和9年度が一つの目安であると考えています。</p>